

原水爆禁止世界大会in広島 (前号からの続き)

核廃絶運動がんばろう!

あらためて決意



その後のヒロシマデー集会は会場・オンラインで5700人以上が参加しました。カザフスタン公使参事官のバトルハンさんは、旧ソ連時代に核実験があったカザフスタンでは、放射能汚染で150万人が今も苦しんでいると発言。いま中央アジア非核地帯条約や「核実験に反対する国際デー」を提案するなど、核廃絶運動で世界を主導し、今後は被害者支援基金を作りたいという発言に会場から大きな拍手が送られました。

最後に被爆80年を迎える前に今まさにロシア、イスラエルなど、世界中で核の脅威が続いていることや戦争拡大につながる政策に対し、「ノーモア・ヒバクシャ」「ノーモア・ウォー」を訴える「広島からのよびかけ」に、会場から大きな拍手



が沸き起こりました。原爆や平和について、かなり学んでいたつもりでも、「原爆炸裂後、なぜ人々は生き残り、皮膚が剥けて、垂れ下がったのか」など、あまり意識していなかったこと、初めて知ることが多く、「まだまだ学び足りない」と感じました。また、世界中に核兵器廃絶を願う人々とともに私

ちの運動をすすめる力となること、私たちが被爆者の思いを継承し、伝え広げていく必要があることを強く実感しました。来年は被爆80年。外に

歩出るだけで汗が止まらないくらい暑い日が続きましたが、全員が体調を崩さず、元気に学びました。人々と地球を汚染する核兵器、原発もない、私たちが大切にされる世界をめざして、あらためて核兵器禁止条約を力に核廃絶運動をさらにがんばろうと決意した3日間になりました。横山 健

被爆者からのバトン

私たちが語り継いでいく

大会後には、分科会や学習会で学んだことを発表する報告会を毎年行なっています。

今年は8月23日に耳原総合病院で行ない、40人が参加しました。

最初に代表団長の端事務次長より、原水爆禁止世界大会の歴史的な経過を説明。その後、参加者が分科会や医労連産別交流会などで学び感じたことを発表しました。

動く分科会「ヒロシ

マの声を聞くこと』碑めぐりに参加した歯科衛生士の近藤駿さんは、「原爆の被害は人間だけでなく、動物も被害を受け、命を落としました」と、被爆アオギリを紹介。当時の科学者が「数十年はペンペン草も生えない」と言われた中で、焼けた幹を包み込むように生じたアオギリが多くの人々に生きる勇気を与え、取れた種が全世界に配られ、2世が誕

生していると報告。「現地に行つて、非核や不戦の願いを世界中の方々と共有することができました」と写真も交えて語りました。

また看護師の沖詩葉さ



んは「原爆の被害者は日本人だけではなく、朝鮮半島、台湾、ドイツ、アメリカの人たちなど、国籍や民族の区別なく、被害を受けました。これまでに日本人が被害にあったことは教わりましたが、ほかの国の人々も犠牲になったことを耳にしたことがなかったため、衝撃を受けました」と報告。焼けただれた皮膚、血まみれの体で必死に逃げようとしている絵などに「原子爆弾、戦争がいかに残酷な行為であるかを実感しました。学んだ私たちが語り継いでいかなければならない」と語る

「まんなかピアノ」演奏の様子も

堺市・永藤市長が耳原総合病院を視察

8月22日に堺市永藤市長が耳原総合病院の視察にお越しになりました。これに先立つ7月、耳原総合病院隣接地を堺市より譲渡いただいたことを受けて、堺市長を訪問し懇談。同仁会・耳原総合病院の長年にわたる救急や周産期医療の奮闘、無差別・平等の立場の地域医療の取り組みをご報告しました。その懇談の際にホスピタルアートの関心を持たれたことから、今回の視察につながりました。



右端が永藤市長

視察当日は、「まんなかピアノ」も利用したヴァイオリンコンサートを開催しており、緩和ケア病棟ではその演奏の様子もご覧いただきました。また

「癒しと安らぎの環境賞2024」受賞

毎年5つの病院施設が表彰される「癒しと安らぎの環境賞2024」



右端が永藤市長

の1つに、耳原総合病院が選考されました。12月には東京「サントリーホール」で授賞式が開かれる予定で、法人を代表して河原林院長と室野チーフアートディレクターが出席予定です。アートの取り組みにこれまで関わっていただいた方々に深く感謝いたします。

理事会報告

8月理事会 (概要)

開催日時：8月22日(木)
午後6時〜7時42分
出席：理事 24名
監事 3名

◆報告

〈主な内容〉

- ・ 拡大常任理事会、各種委員会概要
- ・ 健康友の会みみはら、社保・平和のとりくみ
- ・ 無料低額診療の各事業所実績
- ・ 2024年度第一四半期決算概要
- ・ 2024年7月度決算概要
- ・ みみはら2030年の樹の進捗について
- ・ 総合病院隣接地に関する堺市長の懇談、病院視察
- ・ 事務長の出向時期延期について
- ◆ 協議確認事項
- ・ 理事の退任を承認

集中出版株式会社が主催する「癒しと安らぎの環境賞」は、2000年に故・日野原重明氏を名誉会長、故・岩崎榮氏を会長として、建築家の安藤忠雄氏など20人のメンバーとともに、「アートや音楽を取り入れることで医療施設を癒しと安らぎの環境に近づけてほしい」と開始した活動で、その環境作りを熱心に取り組む医療法人を顕彰されています。